

津麦ニュース 平成30年産 第1報

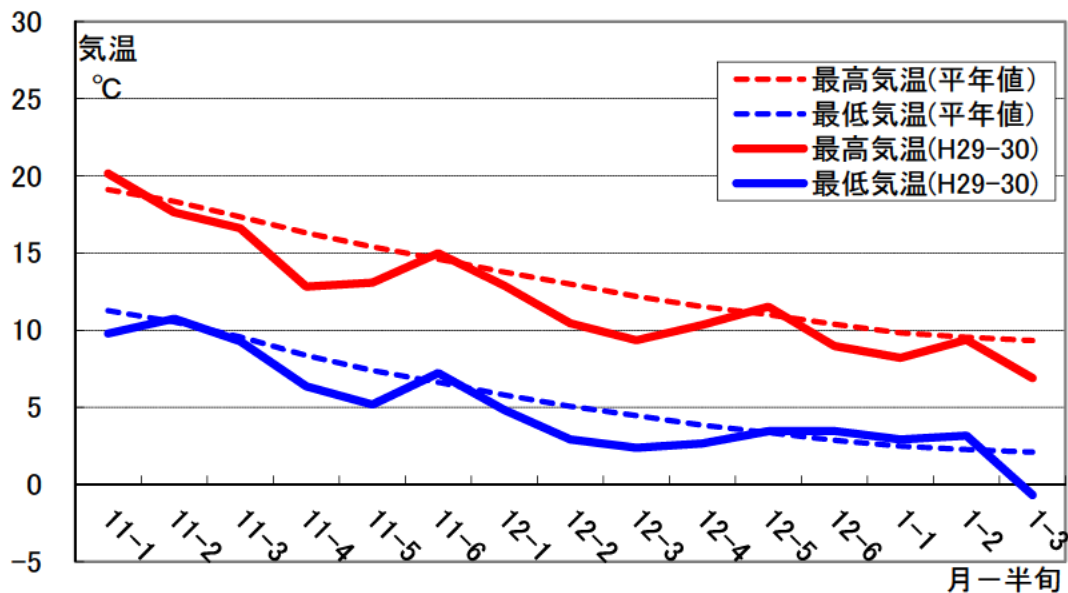
平成30年1月29日発行
津地域農業改良普及センター
電話:059-223-5103

麦の生育は遅れています。
今後、積極的な追肥を行い、生育量を確保しましょう

<気象経過>

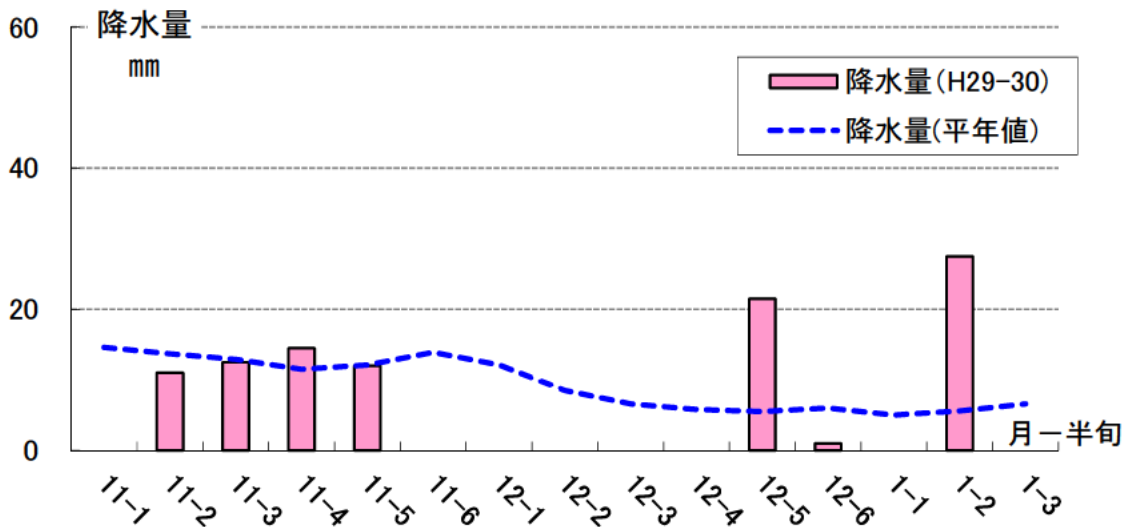
○気温

気温は、11月以降平年に比べ低めに推移しています。



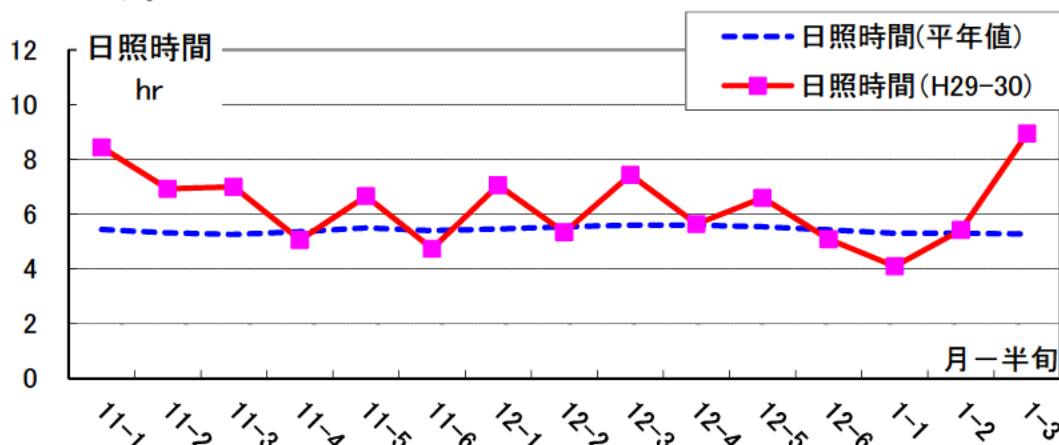
○降水量

11月は定期的に降雨がありましたが、11月末から12月中旬にかけて雨があまり降りませんでした。12月末と1月上旬にまとまった降雨があり平年より多くなりました。



○日照時間

12月末から1月初旬にすくなくなったものの、全体としてはほぼ平年並み以上で推移しています。



<麦の状況>

○ 播種作業

播種作業は、11月3日頃から始まり、11月中は定期的な降雨がありましたが、降水量は少なく、播種作業はほぼ順調に実施されました。管内の播種作業は、大豆後小麦も含め、12月中には概ね完了しました。

○ 生育状況

定期的な降雨がありましたが、播種前の排水対策(周囲溝、弾丸暗渠、チゼル耕など)が行われ、成型播種が増えたことから、小麦の出芽への影響はほとんどなく、順調に出芽したところが多くなっています。11月中旬から低温・乾燥で推移したことから、播種作業が遅れた小麦は出芽がかなり遅れました。生育は平年より遅い傾向で、管内の11月上旬に播種された小麦は分けつが始まり5葉期になっていますが、12月に入ってから播種された小麦は2葉期前後です。

(表) 生育基準は調査結果(1月23日調査)

調査場所	播種月日	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色 SPAD	葉齢 L
安濃	11月10日	11.6	381	46.9	4.2
芸濃	11月27日	9.9	194	39.2	2.3
一志	11月5日	15.0	525	47.1	5.3
白山	11月7日	13.2	380	47.0	4.5

○ 病虫害発生状況

現在のところ、コムギ縮萎病等の病害や虫害は観察されていません。

<今後の対策>

○ 追肥

つなぎ肥

穂数の確保に重要な時期で、「肥切れ」させないことが茎数確保に重要です。葉色が薄くなってきたほ場や苗立ち本数が少なかったほ場では、積極的につなぎ肥(窒素成分2~3kg/10a程度)を施用します。

穂肥

幼穂形成期(6葉期)を迎えたら、穂数確保のため追肥(窒素成分3~4kg/10a)をします。

幼穂形成期を迎える時期は、

11月上中旬の播種では2月中旬~2月下旬、

11月下旬以降の播種では2月下旬以降、と予想されます。

幼穂形成期の生育指標

草丈(cm) × 茎数(本/m²) × 葉色(spada値) ÷ 10,000

あやひかり 15cm × 800本/m² × 葉色50 ÷ 10,000 = 60

○ 麦踏み

麦踏みはほ場がよく乾いているときに、茎立ち期までに実施します。